

「アイヌ民族が先住民族であるという意味」

常本照樹 北海道大学アイヌ・先住民研究センター長

昨年9月に「先住民族の権利に関する国連宣言」が採択され、今年6月には国会が「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」を採択しました。そして、政府はこれを受けて国連宣言を参照しながら我が国の実情に合った総合的政策の検討を開始しています。今回は、これらの動きが日本社会に対して持つ意味を考えます。

常本照樹教授のプロフィール

本学法学研究科博士課程を経て、1983年に法学部講師、1993年に同教授、2007年に本学に設立されたアイヌ・先住民研究センターのセンター長を務める。研究テーマは、先住民族の権利の国内的実現、論文に、先住民の文化と知的財産の国際的保障、アイヌ民族に関する法と裁判など多数。

日 時：11月20日(木) 午後6：30～8：30

会 場：北海道大学遠友学舎 札幌市北区北18条西6丁目

受講料：無 料（事前の申し込みは不要です。直接会場にお越しください）

「遠友学舎炉辺談話」は北海道大学創基125周年を記念して建った「遠友学舎」を会場に、北大教員と市民・学生との対話を意図した、誰でも参加できる発見と学びの場として発足しました。講師は北大の管理運営の責任を担うとともに大学を代表する研究者です。それぞれの専門の立場からや各研究科等が世界に発信する研究教育機関としてどのような取組みをしているかなどについてお話をします。今年度は今回も含め4回にわたって実施をいたします。第1回目は、北海道大学のアイヌ・先住民研究センターと高等教育機能開発総合センターの共催で開催します。皆様のご来聴を歓迎します。

主催：北海道大学高等教育機能開発総合センター、北海道大学アイヌ・先住民研究センター



遠友学舎の外観



《問合せ先》

北海道大学 高等教育機能開発総合センター
生涯学習計画研究部 : 011 - 706 - 6069

E-mail syogai@high.hokudai.ac.jp

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター
: 011 - 706 - 2859

「経済学の中の人間 - 合理的意思決定から感情的意思決定まで - 」

町野 和夫 教授 経済学研究科長

限られた経済的意思決定をする合理的個人のみを前提としていた経済学も、最近では、ニューロサイエンス(神経科学あるいは脳科学)の成果を踏まえた、よりリアルな人間を前提に研究を進め、その政策への応用も始まっています。今回はこのような経済学の最新動向について具体例を使いながらできるだけ分かり易く紹介します。

日 時：12月18日(木) 午後6:30~8:30

会 場：北海道大学遠友学舎 札幌市北区北18条西6丁目

受講料：無 料(事前の申し込みは不要です。直接会場にお越しください)

町野和夫 教授 のプロフィール

京都大学経済学部を卒業後、米国ノースカロライナ大学大学院博士課程を修了、学術博士。1995年に北海道大学経済学部助教授、2004年に同教授、2008年から経済学研究科長・学部長。理論経済学(集成的意思決定・応用ゲーム理論)を専門とし、著書・論文は『ミクロ経済学入門：ビジネスと政策を読み解く』(有斐閣、2008年)、「ネットワークの科学とネットワーク形成ゲーム」など多数。

「遠友学舎炉辺談話」は北海道大学創基125周年を記念して建った「遠友学舎」を会場に、北大教員と市民・学生との対話を意図した、誰でも参加できる発見と学びの場として発足しました。講師は北大の管理運営の責任を担うとともに大学を代表する研究者です。それぞれの専門の立場からや各研究科等が世界に発信する研究教育機関としてどのような取組みをしているかなどについてお話をします。今年度第2回目は、経済学研究科長 町野和夫教授 に講演していただきます。皆様のご来聴を歓迎します。

主催：北海道大学高等教育機能開発総合センター



遠友学舎の外観



《問合せ先》

北海道大学 高等教育機能開発総合センター
生涯学習計画研究部 : 011 - 706 - 6069

E-mail syogai@high.hokudai.ac.jp